

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4614		
科目名	危機管理特殊研究 4		
担当教員	木下 誠也		
対象学年	4年	開講学期	後期
曜日・時限	水 2		
講義室	1313	単位区分	選必
授業形態	演習	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる論理知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 5－J 〔創造的挑戦力・達成力〕 コンピテンスの開発を生涯にわたり継続して行うことを、自らの思考及び行動のパターンとするとともに、既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができる。 D P 6－K 〔表現力・対話力〕 文章口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L 〔協働力・牽引力〕 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 D P 8－M 〔省察力〕 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識と専門技能（20%） F1 探求と論拠（10%） I1 理解・分析と読解（10%） J1 継続的学修基盤（10%） K1 ライティング・コミュニケーション（10%） K2 オーラル・コミュニケーション（10%） L1 チームワーク（10%） M1 統合的・応用的学修（20%）		
教員の実務経験	2009年までの31年余にわたり国土交通省をはじめ内閣府や地方公共団体その他の勤務を通じて防災のためのインフラ整備や災害対応の実務に関与しました。実務上の知見と経験を生かした研究指導を行います。（第1回、第2回、第3回、第4回、第5回、第9回、第10回、第11回）		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理に関する専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付けるための指導を行います。学生個人のキャリア形成にもつながるよう、学生自身が危機管理に関する具体的な業務、資格などに関する専門的な研究を行い、実務教員が中心となり実践的な指導を行います。危機管理に関する知識や教養を養うだけでなく危機管理において必須となるコーディネー		

	ト、マネジメントに必要な調整能力を身に付けることを目標とします。ここでは、各自の研究テーマで研究計画に基づいたレポートを執筆し、完成させるための論文指導を行います。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 (キーワード) 危機管理・集团的検討・災害マネジメント								
授業の趣旨	■副題 災害や事故による被害を最小限にする事前の対策と災害や事故が起きたときの対処策のあり方について、過去の事例を分析して解決策を検討することにより、防災・危機管理に関する実的な研究能力を養い、研究を通じて知識を習得して思考力・分析力を磨くだけでなく、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めましょう。 ■授業の目的 危機管理、とりわけ災害マネジメントに関する研究テーマの探求、研究手法の会得、研究成果の発表の各過程を通じて、①探求力・課題解決力、②学識・専門技能、③論理的思考力・批判的思考力、④理解力・分析力、⑤表現力・対話力の各コンピテンスの開発を行うことを目的とします。 ■授業のポイント 将来のキャリアを見据えた学びにおいて、⑥自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢、⑦倫理観と公共心、⑧省察力の各観点について自覚を持つことも望まれます。								
総合到達目標	■旺盛な関心をもって防災・危機管理に関する重要問題を学識として把握し、これを集团的な知見の統合を通じて科学的な手法によって情報分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・防災・危機管理に関して学んだことを科学的な手法によって分析して、現状と課題を適切に説明できる。(第1～第2回) ・防災・危機管理に関する重要問題を把握するため既往の研究を科学的な手法によって情報分析し、又は論理的に解釈して、学習した成果を適切に説明できる。(第1～5回) ・防災・危機管理に関する研究に基づきレジュメを作成、重要問題について他者に内容を適切に説明することができる。(第3～7回) ・グループワークを通じて、防災・危機管理に関する重要問題について集团的な知見の統合を通じて適切に説明し、他者と議論することができる。(第1～3回、第9～11回) ・課題に基づく重要問題について研究成果を発表して自分の意見を適切に説明し、他者の研究に対して意見を述べるができる。(第6～8回、第12～15回) ・防災・危機管理の重要問題について集团的な知見の統合を通じて科学的な手法によって情報分析し、又は論理的に解釈して適切に説明することができる。(第1～15回)								
成績評価方法	■授業参加度 (60%) : 適用ルーブリック E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1 (評価の観点) 災害の危機管理に必要な学識と分析力を身につけるために積極的に授業に参加したか、理解が十分かどうかを評価します。 (フィードバックの方法) 授業の中でフィードバックします。 ■とりまとめ発表 2回 (40%) : 適用ルーブリック E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1 (評価の観点) 災害の危機管理に関する基礎的な知識と研究能力を評価します。 (フィードバックの方法) 後日評価の観点を示します。								
履修条件	災害マネジメントについて研究に必要な知識を身につけていて、災害の被害軽減策や対応策の改善について課題を認識していること。								
履修上の注意点	特にありません。								
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ グループワーキング 1 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに深める。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。専門分野にかかる論理知と実践知を獲得して利用できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ グループワーキング 2 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに深める。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。専門分野にかかる論理知と実践知を獲得して利用できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ グループワーキング 3 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ グループワーキング 1 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに深める。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。専門分野にかかる論理知と実践知を獲得して利用できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。	2	①授業テーマ グループワーキング 2 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに深める。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。専門分野にかかる論理知と実践知を獲得して利用できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。	3	①授業テーマ グループワーキング 3 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに
回	内容								
1	①授業テーマ グループワーキング 1 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに深める。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。専門分野にかかる論理知と実践知を獲得して利用できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。								
2	①授業テーマ グループワーキング 2 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに深める。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。専門分野にかかる論理知と実践知を獲得して利用できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習 (120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習 (120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。								
3	①授業テーマ グループワーキング 3 ②授業概要 ピアレビューを踏まえてグループディスカッションを行い、研究をさらに								

	深める。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。専門分野にかかる論理知と実践知を獲得して利用できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
4	①授業テーマ 実地学習の準備研究 ②授業概要 災害マネジメント領域の研究の参考になる実地学習の準備研究を行い、全グループ間における意見交換を行う。実務経験を踏まえて現場の課題を説明する。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
5	①授業テーマ 実地学習 ②授業概要 災害マネジメント領域の研究の参考になる実地学習を行い、災害マネジメントの実状について理解を深める。実務経験を踏まえて現場の課題を説明する。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
6	①授業テーマ 研究発表1 ②授業概要 研究成果を発表し、ピアレビューと意見交換を行う。既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
7	①授業テーマ 研究発表2 ②授業概要 研究成果を発表し、ピアレビューと意見交換を行う。既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
8	①授業テーマ 研究発表3 ②授業概要 研究成果を発表し、ピアレビューと意見交換を行う。既存のアイデアを革新的かつ創造的に統合し、リスクをとりながら、結果に結び付けることができるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
9	①授業テーマ 研究レビューグループワーキング1 ②授業概要 研究レビューのためのグループワークを行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。知識と経験とを関連付けて課題解決につなげることができるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
10	①授業テーマ 研究レビューグループワーキング2 ②授業概要 研究レビューのためのグループワークを行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。知識と経験とを関連付けて課題解決につなげることができるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
11	①授業テーマ 研究レビューグループワーキング3 ②授業概要 研究レビューのためのグループワークを行う。実務経験に基づく話題提供を適宜行う。知識と経験とを関連付けて課題解決につなげることができるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。

	12	①授業テーマ 最終研究成果発表 1 ②授業概要 研究成果発表を行う。研究テーマについて事例分析等を踏まえてわかりやすく論理的に説明できるように 文章で的確に表現し、他者に過不足なく説明できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
	13	①授業テーマ 最終研究成果発表 1 ②授業概要 研究成果発表を行う。研究テーマについて事例分析等を踏まえてわかりやすく論理的に説明できるように 文章で的確に表現し、他者に過不足なく説明できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
	14	①授業テーマ 最終研究成果発表 1 ②授業概要 研究成果発表を行う。研究テーマについて事例分析等を踏まえてわかりやすく論理的に説明できるように 文章で的確に表現し、他者に過不足なく説明できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
	15	①授業テーマ 研究全般を振り返りレビュー ②授業概要 研究成果全体を振り返って総括する。卒業研究とりまとめを踏まえ、専門的な問題解決のために必要な知識やスキルを身に付け、災害マネジメントにおける重要問題を探求し、これを科学的な手法によって情報分析できるようにする。(E1、F1、I1、J1、K1、K2、L1、M1) ③予習(120分) 事前に研究を進めて、自分なりの説明をまとめる。 ④復習(120分) 指摘されたことを踏まえて、自分の研究の軌道修正を行って研究を深める。
関連科目	①演習系科目としては、「自主創造の基礎 1・2 RMGT1215,RMGT1216」・「危機管理基礎演習Ⅰ RMGT2601」・「危機管理基礎演習Ⅱ RMGT2602」・「危機管理特殊研究 1～3 RMGT4611～3」と関連する。 ②講義科目については、「自然災害論RMGT3503」、「災害と法RMGT3401」、「地域防災論RMGT3505」、「ライフライン防護RMGT3531」。	
教科書	■①木下誠也『自然災害の発生と法制度』コロナ社、2018、ISBN 978-4-339-05256-5、②木下誠也『地域防災とライフライン防護』コロナ社、2018、ISBN 978-4-339-05261-9	
参考書・参考URL	■大石久和・藤井聡『国土学』（北樹出版・2016）、石井一郎他『防災工学（第2版）』（森北出版）、河田恵昭『日本水没』（朝日新書・2016）、土屋信行『首都水没』（文春新書・2014）、玉真俊彦『管があぶない』（ぎょうせい・2011）、武部健一『道路の日本史』（中公新書・2015）	
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 掲示板にてお知らせします。メールにて事前にアポイントメントをとってください。	
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%、パブリックセキュリティ10%、情報セキュリティ10%、グローバルセキュリティ10% ■危機管理学と法学のバランス 危機管理学80%、法学20%	

